



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

News Letter to Arts Crew

10月号—No.282

2018.9.25

(毎月1回25日発行)

【胡桃色(くるみいろ)】グレイッシュな淡い黄褐色。

英色名のウォルナット(walnut)は胡桃の殻の色だが、和名の胡桃色は胡桃の樹皮や葉、緑の果皮を用いて染めた淡い茶色のこと。日本では縄文時代から胡桃を食用とし、奈良時代や平安時代にはこれで染めたおしゃれなカラー和紙が用いられていたとか。やたらと便箋に凝る日本人のルーツはこんなところにあるのかもしれない。

●目次／contents

今月のニュース..... 2

平成30年度「リージョナルシアター事業」報告

財団からのお知らせ..... 4

平成31年度「公共ホール現代ダンス活性化支援事業(ダン活支援)」実施団体募集／平成29年度「公立文化施設の管理運営状況に関する調査研究」報告書のご案内／(一財)自治総合センター「地域の芸術環境づくり助成事業」募集開始

今月の情報..... 5

地域通信／特集 アートプロジェクト

今月のレポート..... 12

石川県金沢市 オーケストラ・アンサンブル金沢／石川県立音楽堂
日本の室内オペラシリーズ「卒塔婆小町」

●平成30年度「リージョナルシアター事業」

西和賀町、鈴鹿市など全国9地域で開催

平成30年度 リージョナルシア ター事業



演出家などを公立ホールに派遣し、公立ホール職員と共に地域のニーズを踏まえたアウトリーチやワークショップを企画し、実施する平成30年度リージョナルシアター事業がスタートしました。今年度は西和賀町文化創造館 銀河ホールなど全国9地域で開催します。

この事業では、演劇活動の楽しみやコミュニケーション力・表現力の向上など、演劇の幅広い可能性についてホール職員の理解を深め、演劇による地域活性化の試みを後押しすることを目的としています。地域での活動実績が豊富な派遣アーティスト5名・アドバイザー2名が参加した東京での研修会(1泊2日)、派遣アーティストが地域に出向く下見(1泊2日)の後、現地で具体的なプログラムを実践する派遣事業(原則3泊4日を2回)が行われます。この枠組みの中でどのような取り組みが行われているのか、今号のレターでは今年度の皮切りとなった銀河ホールおよび鈴鹿市文化会館での事業の模様をご紹介します。

●ラジオドラマづくりに挑戦～銀河ホール

岩手県西和賀町は秋田との県境に位置し、

巨大なダム湖である錦秋湖と温泉のある人口約5,800人の溪谷の町です。地元で演劇をつくり続けてきた劇団ぶどう座の活動や、高齢者演劇による地域づくりで知られた湯田町と沢内村が2005年に合併して誕生しました。2015年まで高齢者演劇の拠点だった銀河ホールでは、若返りと都市との交流を図るべく、新たに演劇や美術を学ぶ学生の合宿を受け入れる「ギンガク(銀河ホール学生演劇合宿事業)」をスタートし、夏冬の年2回開催してきました。

「ギンガクで滞在する学生と地域との交流がないことが課題になっていました。また、演劇に力を入れてきたホールとして北東北にアーティストを招く窓口になればと思いました」と、担当の小堀陽平さん。小堀さんは京都のアートNPOでの仕事を経て、地域おこし協力隊として西和賀町に移住し、今は町のアートコーディネーターとして銀河ホールの文化事業全般を担当。今回の派遣アーティストであるごまのはえさんとは旧知の間柄だったこともあり、ギンガクで滞在中の学生が参加したユニークな取り組みが実現しました。

まず、1回目派遣(7月31日～8月3日)では、

写真

左上：西和賀町文化創造館 銀河ホールで行われたワークショップ(音づくりワークショップ)

左下：完成した作品を高齢者施設で発表するごまのはえさんと参加者たち

右上：鈴鹿市立庄内小学校でのアウトリーチ。福田修志さん(左)が子どもたちと一緒に3枚の写真をヒントに物語づくりを行う

右下：鈴鹿墨に親しんでもらいたいという要望を受けて企画されたワークショップ。鈴鹿墨で描く絵の題材を求めてまち歩き

●リージョナルシアター事業に関する問い合わせ

芸術環境部 藤原・水上
Tel. 03-5573-4124

▼— 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

地域と学生の交流を図るため、古い地元の写真を元にお年寄りからインタビューした思い出話を題材にして台本をつくる創作講座を開催。2回目派遣(8月20日～23日)では、その間に推敲した台本を地元の方々の協力で西和賀の方言に書き換え。ギンガク参加者や演劇経験者のホール職員、ごまのはえさんやアシスタントの俳優2人が出演し、音づくりワークショップで効果音をつけた5本の短編朗読劇を完成。高齢者施設で発表を行うとともに、地元の告知端末でラジオドラマとして放送しました。

ごまのはえさんは、「アイホール(伊丹市立演劇ホール)のワークショップ研究会で、地域の写真を元に思い出話を聞いて短編をつくる試みをやり、手応えを感じました。今回の西和賀ではお年寄りの個人史や地域性が出ていてとても面白い台本になりました。外から来た学生がヒアリングしたのが良かったのだと思います」と振り返っていました。保存した白菜を雪の中から掘り出している写真から雪の中の嫁入り行列について語り合う母娘の会話を立ち上げた『雪の上の花嫁』や、高校生が蒸気機関車の写真を元に初めて汽車に乗る修学旅行生のドタバタを描いた『日常狂想曲』など、演劇を通じていろいろな人が交流し、方言や地域の物語の豊かさを表現した作品が生まれ、その成果をラジオドラマとして町民が共有するという大きな成果となりました。

●いろいろなところで物語をみつける～鈴鹿市文化会館

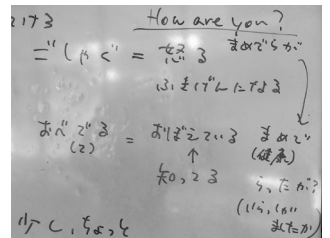
おんかつ参加館でもある鈴鹿市文化会館では、「演劇についても力をつけたい」とリージョナルシアター事業への参加を決めました。派遣アーティストは、長崎を拠点にする福田修志さんとアシスタントの俳優2人です。福田さんが定番にしている小学校へのアウトリーチ・プログラム(参加者がカードを引いて登場人物＝自分の名前と性格を決め、無作為に選んだ3枚の写真をヒントにみんなで何かを探しに行く物語をつくる)に加え、一般公募のユニークな取り組みが行われました。

1回目派遣(7月26日～29日)で行われたのがバックステージツアーです。「バックステージツアーは普段入ることのできない場所を説明するものが多いですが、劇場の裏側はとてもワクワクする空間です。それを感じてほしくて、自分が気になる場所を見つけて秘密のお話を考えるワークショップを企画しました」と福田さん。子どもたちが自在に物語世界を操っていたのに対し、何もイメージが浮かばない大人たち——演劇的なものの見方を通じてお互いの姿を見つめあう貴重な時間になりました。

また、2回目派遣(9月6日～9日)では、一般公募のコミュニケーション・ワークショップと、墨として日本で唯一国から伝統工芸品に指定された鈴鹿墨を使ったワークショップが行われました。前者には会社員やOL、店長、教師、市民劇団関係者、高校生など多様な人が参加。さまざまなゲームを通じて、言葉だけで伝達することの難しさ、身体表現や声の重要性について体感しました。もっと鈴鹿墨に親しんでもらいたいという要望を受けて企画されたワークショップでは、まち歩きをしながら物語を感じるところを撮影し、鈴鹿墨を用いて物語とそれにまつわる絵を描きました。何にでも変身できる「ヘン君」とまち歩きをしたという小学3年生や、町民ならみんな知っているという緑色のお堀の秘密についての物語など、墨の香りとともに記憶に残ったワークショップになりました。

担当の工藤真里奈さんは、「演劇事業を担当したのは初めてですが、演出家は私が不思議に思わないことに疑問をもったりする不思議な存在で、交流することで世界が広がりました。市民にも演出家と出会う、世界観を広げてほしいと思いました」と演劇の可能性に目覚めたようでした。

参加者からは、「何気なく通り過ぎていた景色からストーリーが生まれることに驚きました。ワークは自分の中から、何か、新しいものを引き出してくれたように思います。素晴らしい発見です」といった感想も聞くことができました。



上：銀河ホールのワークショップで西和賀の方言を書き出したボード
下：鈴鹿墨で描いた絵を披露

●平成30年度リージョナルシアター事業

◎参加団体

- 西和賀町(西和賀町文化創造館 銀河ホール)
- 牛久市(牛久市中央生涯学習センター・文化ホール)
- (公財)東松山文化まちづくり公社
- 秩父市(秩父宮記念市民会館)
- NPO法人魚沼交流ネットワーク(魚沼市小出郷文化会館)
- (一財)こまき市民文化財団(小牧市市民会館)
- (公財)鈴鹿市文化振興事業団(鈴鹿市文化会館)
- NPO法人武豊文化創造協会(武豊町市民会館)
- (公社)岡山県文化連盟(岡山県天神山文化プラザ)

◎派遣アーティスト

- 多田淳之介(東京デスロック主宰、演出家・俳優)
- 田上豊(田上バル主宰、劇作家・演出家)
- 有門正太郎(有門正太郎プレゼンツ主宰、演出家・俳優)
- 福田修志(F's Company代表、劇作家・演出家)
- ごまのはえ(ニットキャップシアター代表、劇作家・演出家・俳優)

◎アドバイザー

- 内藤裕敬(南河内万歳一座座長、劇作家・演出家)
- 岩崎正裕(劇団太陽族主宰、劇作家・演出家)

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

財団からのお知らせ

●平成31年度「公共ホール現代ダンス活性化支援事業(ダン活支援)」実施団体募集

公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)実施団体を対象としたフォローアッププログラムです。ダン活で蓄積したノウハウを活用し、引き続き同様の事業を自主的に行う地方公共団体等に対し、財政的な支援を行います。

募集締切:平成30年10月31日(水)必着

◎対象団体

- ダン活のAプログラム(地域交流プログラム)、Bプログラム(市民参加作品創作プログラム)、Cプログラム(公演プログラム)のすべてを実施した地方公共団体等
- ダン活のAプログラムおよびBプログラム、またはAプログラムおよびCプログラムを実施した地方公共団体等

◎対象アーティスト

公共ホール現代ダンス活性化支援事業登録アーティスト(22組)

◎支援内容

以下の①②に係る経費の1/2以内の額を1年間のみ助成します。

①対象アーティスト等派遣経費

対象アーティスト、アシスタント、テクニカルスタッフ等の出演料等(助成対象上限あり)、交通費(現地移動費を除く)、宿泊費、日当、損害保険料

②公演負担金

公演実施にかかる経費(助成対象上限あり)

※助成上限額等の詳細については要綱をご確認ください。

●平成29年度「公立文化施設の管理運営状況に関する調査研究」報告書のご案内

この調査研究は、平成15年の地方自治法の改正によって地方公共団体が設置する公の施設に指定管理者制度が導入されて以来、多くの施設で同制度が取り入れられ、多様化している公立文化施設の管理運営状況を把握することを目的に実施しました。

全国の地方公共団体(都道府県、政令市、市区町村)1,790団体を対象としてアンケート調査を実施し、917団体(回収率51.2%)の回答結果を元に、地方公共団体の文化施設等の設置状況、個別の文化施設の管理運営状況については「直営」と「指定管理」に分けて分析を行い、報告書にまとめました。

報告書は当財団のウェブサイトの「出版物・報告書」→「調査研究報告書」から閲覧・ダウンロードできます。

<http://www.jafra.or.jp/j/library/investigation/new/index.php>

◎「公立文化施設の管理運営状況に関する調査研究」目次

第1部:調査のまとめ

1. アンケート調査の実施概要
2. 地方公共団体を対象とした調査結果の概要
3. 直営・指定管理の共通設問の調査結果の概要
4. 【直営】を対象とした調査結果の概要
5. 【指定管理】を対象とした調査結果の概要

第2部:調査結果

1. 基本調査票によるアンケート調査結果
2. 個別調査票【直営】によるアンケート調査結果
3. 個別調査票【指定管理】によるアンケート調査結果

●(一財)自治総合センター「地域の芸術環境づくり助成事業」の募集開始について

(一財)自治総合センターでは、宝くじの社会貢献広報事業であるコミュニティ助成事業の一環として、公立文化施設の利活用の推進や企画制作能力の向上等を図るため、市(区)町村(ただし政令指定都市を除く。)に対する「地域の芸術環境づくり助成事業」を実施しています。

このたび平成31年度事業の募集が開始されましたのでお知らせします。締切は各都道

府県の文化担当課へお問い合わせください。

[問い合わせ] 一般財団法人自治総合センター
担当: 沢崎 Tel. 03-3504-0841

※事業の詳細につきましては、(一財)自治総合センターのウェブサイトをご覧ください。

<http://www.jichi-sogo.jp/>

※都道府県から(一財)自治総合センターへの締切は11月30日(金)必着。

●「公共ホール現代ダンス活性化支援事業」に関する問い合わせ
芸術環境部 岩藤
Tel. 03-5573-4077
dankatsu@jafra.or.jp

●調査研究報告書に関する問い合わせ
芸術環境部 三田・高澤
Tel. 03-5573-4066

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

地域通信

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示しているのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知

[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知

[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 三田・高澤

●2018年12月号情報締切
11月2日(金)

●2018年12月号掲載対象情報
2018年12月～19年2月に開催もしくは募集されるもの

地域創造ウェブサイト「人材ネットバンク」 掲載情報募集中

当財団ウェブサイト内に以下の情報を掲載するページを設けています。

- ◎公共ホール等の求人情報
- ◎公共ホール等で実施する人材育成研修の開催情報

掲載・申込方法など詳細はウェブサイトをご覧ください。
<http://www.jafra.or.jp/>

北海道・東北

●札幌市

札幌市芸術文化財団(札幌文化芸術劇場 hitaru)

〒060-0001 札幌市中央区北1条西1丁目 札幌市民交流プラザ
Tel. 011-271-1950 長谷川麻里香
<https://www.sapporo-community-plaza.jp/theater.html>

札幌文化芸術劇場 hitaruこけら落とし公演 グランドオペラ 共同制作 ヴェルディ作曲オペラ『アイダ』

北海道初の多面舞台劇場「札幌文化芸術劇場 hitaru」のこけら落とし公演で、国内4劇場と3つの実演団体の共同制作によるオペラ。昨年のプレ公演で初共演した注目の指揮者、アンドレア・バッティストーニと札幌交響楽団が再びタッグを組み、国内外で活躍する歌手を迎えて華やかに幕を開ける。

[日程]10月7日、8日

[会場]札幌文化芸術劇場 hitaru

●北海道斜里町

斜里町手づくりシアター実行委員会

〒099-4113 斜里郡斜里町本町4 (ゆめホール知床内)
Tel. 0152-22-2222 結城みどり
https://www.town.shari.hokkaido.jp/05institution/10kyouiku_bunka/2012-0414-1533-66yumetop.html

町民劇『知床の生命(いのち)～小さな生きものにことよせて～』

ゆめホール知床開館20周年に向け、2年前から町民有志により実行委員会を組織。これまで町民劇の中心となってきた開館当初より関わった世代から若い世代に取り組みが引き継がれるように、運営委員や役者も若い町民を積極的に起用。舞台関係・制作等もすべて町民による創作。2部構成の舞台は、運営・役者総勢100人により地元知床斜里の歴史と自然を

テーマに展開する。

[日程]10月13日、14日

[会場]斜里町公民館 ゆめホール 知床

●仙台市

せんだい3.11メモリアル交流館
〒984-0032 仙台市若林区荒井字杵形85-4

Tel. 022-390-9022 田澤絃子
<http://sendai311-memorial.jp/>

竹であそぶ

東日本大震災の影響により仙台市東部沿岸地域にあった屋敷林がなくなり竹林が残った。本展では、80歳前後の地域住民の指導を受け、彼らが少年期につくった鳥かごを再現するほか、竹ひごで作成した最大10mの展示台を室内に囲む形で配置し、震災の影響による景観の変化や竹藪の出現などを紹介したパネルを展示する。竹の楽器製作体験など関連イベントも開催。

[日程]9月4日～2019年1月14日

[会場]せんだい3.11メモリアル交流館

●宮城県塩竈市

チルドレンズ・アート・ミュージアムしおがま実行委員会

〒985-0016 塩竈市港町2-3-11
Tel. 080-3198-4818 高田彩
<http://sugimurajun.shiomo.jp/>

チルドレンズ・アート・ミュージアムしおがま

地元の作家らが講師となり、島の植物を使った草木染やカリンバづくりなど、子どもから大人まで楽しめるプログラムを美術館全体で開催する。東日本大震災の復興支援を契機に倉敷にある大原美術館との交流が始まり、芸術文化活動に関する研修会を重ねてきた地域住民らが、大原美術館での教育普及プログラム「チルドレンズ・アート・ミュージアム」の取り組み事例を

参考にしながら企画した。

[日程]10月20日

[会場]塩竈市杉村惇美術館



美術館ツアー「こども探偵事務所」

●秋田県横手市

鴻池朋子展実行委員会

〒013-0064 横手市赤坂字富ヶ沢62-46 (秋田県立近代美術館内)

Tel. 0182-33-8855 鈴木京

<http://www.akita-abs.co.jp/konoike/>

鴻池朋子「ハンターギャザラー」

秋田県出身のアーティスト・鴻池朋子の県内初の大規模企画展。“ハンターギャザラー(狩猟採集民)”をテーマに、人間中心の視点を解体することを試みる。野生動物の毛皮でつくられた毛皮山脈「ドリームハンティンググラウンド」や、幅8m×高さ6mの大きな板を彫ってつくる絵画など新作を中心に展示。
[日程]9月15日～11月25日
[会場]秋田県立近代美術館

●福島県いわき市

いわき芸術文化交流館アリオス
〒970-8026 いわき市平字三崎1-6

Tel. 0246-22-8111 足立優司

<http://iwaki-alios.jp/>

アリオス☆ワンコインコンサート《歴史的チェンバロ、バロックからコンテンポラリーへ》

世界で活躍するチェンバロ奏者・北谷直樹が、気鋭のバロックヴァイオリニスト・杉田せつ子らをスペシャルゲストに迎え、ヒストリカル・チェンバロの歴史を紐解く。アリオス所蔵の16フィート弦付ジャーマンチェンバロで、

クーブランやJ.S.バッハの作品に加え、2017年に作曲されたラザールの作品も演奏し、21世紀のチェンバロ音楽最前線に迫り、未来への扉を開ける。

[日程] 10月11日

[会場] いわき芸術文化交流館アリオス

関東

●茨城県小美玉市

小美玉市文化センター(アピオス)
〒311-3423 小美玉市小川225
Tel. 0299-58-0921 林美佐
<http://apios.city.omitama.lg.jp/>

APIOS STREETDANCE FESTIVAL ONE 2018

地域住民が主体となって、大ホールの1,200席を満席にする企画として練り上げたストリートダンスフェスティバル。今回はWORLD OF DANCEを2連覇したFabulous SistersのRuがメイン公演をプロデュース。海外でも活躍するゲストダンサーに加え、公募でオーディション選考した約20人の出演者が2カ月間のワークショップを経て舞台に立つ。屋外広場では地域の特色をいかしたイベントやフードなどの販売も行われる。

[日程] 10月14日

[会場] 小美玉市文化センター(アピオス)

●栃木県那須町

那須クラシック音楽祭実行委員会
〒325-0302 那須郡那須町高久丙1147-101
Tel. 0287-76-7268 矢野晴子
<http://www.ncmf.site/>

第1回那須クラシック音楽祭

「那須で地域に密着した本格的なクラシック音楽祭を開催したい!」との熱い思いから、音楽ホール・弦楽亭のオーナーを中心とする地元の音楽愛好家で結成された実行委員会により開催される本格的な音楽祭。運

営資金はクラウドファンディングと那須の各施設からの協賛で募った。期間中は弦楽亭をはじめ、観光施設や宿泊施設でのロビーコンサートが行われ、町全体に音楽が響きわたる。

[日程] 9月2日～9月30日

[会場] 弦楽亭、那須町文化センター、ステンドグラス美術館ラファエル礼拝堂ほか

●群馬県太田市

太田市美術館・図書館
〒373-0026 太田市東本町16-30
Tel. 0276-55-3036 小金沢智
<http://www.artmuseumlibraryota.jp/>

本と美術の展覧会 vol.2

「ことばをながめる、ことばとあるくー詩と歌のある風景」

複合施設であることを活かし企画された“本と美術の展覧会”第2弾。詩や歌を“本”ではなく、展示室の空間で視覚表現とともに“読む”という新しい行為でアプローチする。グラフィックデザイナーや画家、イラストレーターが気鋭の詩人や太田市出身の歌人とコラボレーションしたインスタレーションや街の散策を通してつくられた作品、壁画が並ぶ。

[日程] 8月7日～10月21日

[会場] 太田市美術館・図書館



3階「短歌×インスタレーション」(大槻三好・松枝、惣田紗希)展示風景 写真: 吉江淳

●千葉県

千葉県文化振興財団
〒260-8661 千葉市中央区市場町11-2
Tel. 043-222-0201 時田・的場
<http://www.cbs.or.jp/chiba/>

コンドルズ日本縦断大起動 ツアー2018「START ME UP」 千葉スペシャル公演

コンドルズのメンバーを講師に約60人の児童や障がい者を対象に体を自由に使って動きと発想で表現することを楽しむワークショップを開催。その成果を創作ダンスパフォーマンスとしてコンドルズ公演のオープニングで披露する。また、コンドルズによるプレイベントを地元のショッピングモールで行い、文化芸術に馴染みのない市民にも周知を図る。

[日程] 10月21日

[会場] 千葉県文化会館

●東京都渋谷区

渋谷区文化総合センター大和田
〒150-0031 渋谷区桜丘町23-21
Tel. 03-3464-3251 瀬川美保
<http://www.shibu-cul.jp/>

伝承ホール寺子屋カブキ踊り 「渋谷金王丸伝説」

2010年に文化総合センター大和田が開館したことをきっかけに市川染五郎(現十代目松本幸四郎)の監修で始まった創作カブキ踊り。9回目となる今回は、松本幸四郎を襲名してから初めての公演となることから、前回までとは趣を変え、歌と踊りを中心とした内容となっている。公演のフィナーレは、伝承ホール寺子屋の塾生約100人が踊る「渋谷カブキ音頭」と「カブキぼん!ダンス」で締めくくる。

[日程] 10月22日

[会場] 渋谷区文化総合センター大和田 さくらホール

●東京都府中市

府中文化振興財団
〒183-0001 府中市浅間町1-2
Tel. 042-335-6210 福島恵
<http://www.fuchu-cpf.or.jp/theater/>
府中の森めばえコンサート
Vol.46

「様々な音楽の分野で才能ある若い演奏家を育て、地域で応援していこう。」と始まったコンサートシリーズ。今回は第86回(2017年)日本音楽コンクールで第1位を受賞したヴァイオリン部門の大関万結、チェロ部門の香月麗が登場。ベートーヴェンのヴァイオリンソナタやフランクのチェロソナタなど、若さ溢れるフレッシュな演奏を披露する。

[日程] 10月13日

[会場] 府中の森芸術劇場

●川崎市

川崎市アートセンターアルテリオ小劇場
〒215-0004 川崎市麻生区万福寺6-7-1
Tel. 044-955-0107 藤田・山下
<http://kawasaki-ac.jp/>

しんゆりシアター『三人姉妹』

プロの芝居やミュージカル公演などを劇場が独自にプロデュースする「しんゆりシアター」シリーズ。今回はチェーホフの代表作『三人姉妹』を、シリーズ初登場の五戸真理枝(文学座)が演出する。地元で本拠を構える劇団民藝をはじめ各方面から役者やスタッフを招き、新しい出会いから生まれる新たな『三人姉妹』の上演を目指す。

[日程] 10月13日～21日

[会場] 川崎市アートセンターアルテリオ小劇場

北陸・中部

●新潟市

りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館
〒951-8132 新潟市中央区一番堀通町3-2
Tel. 025-224-7000 坂内佳子
<http://www.ryutopia.or.jp/>

りゅーとぴあ開館20周年記念 ミュージカル『シャンポーの森 で眠る』

1998年にりゅーとぴあの開館

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

記念ミュージカルとして初演され高い評価を得た作品が、開館20周年を記念し、新演出版として新たなキャスト・スタッフを迎えて待望の再演。オーディションで選ばれた小学4年生から70歳代までの新潟のキャスト約60人と、東京で活躍するプロの俳優が一体となって、伝説の舞台をつくり上げる。

[日程] 10月19日～21日

[会場] りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館

●新潟県上越市

上越文化会館

〒943-0804 上越市新光町1-9-10

Tel. 025-522-8800 齊藤美代子

<http://www.joetsu-bunkakaikan.com/>

上越文化会館創立40周年記念公演 シエナ・ウィンド・オーケストラ×上越市民吹奏楽団ジョイントコンサート

上越文化会館ではシエナ・ウィンド・オーケストラ、上越教育大学と音楽文化向上や次世代育成に向けて互いに協力する協定を結んで以来、ワークショップや小規模編成による公演を開催してきた。今回は開館40周年を記念し、フルオーケストラによる公演を行う。楽器を持参した観客が演奏に参加できる企画も実施。

[日程] 10月14日

[会場] 上越文化会館

●新潟県長岡市

長岡市芸術文化振興財団

〒940-2108 長岡市千秋3-1356-6

Tel. 0258-29-7715 山田紀保子

<http://www.nagaoka-caf.or.jp/>

長岡リリックホール開館記念日コンサート ながおかを奏でる

1996年11月1日にオープンした長岡リリックホールの誕生を祝うコンサート。前半は美しい風景と音楽で綴る「ながおかの四季」を、後半は長岡に伝わる民

話をオペラに仕立てた「ミニオペラ～月見草の嫁」を上演。地元で活躍するソプラノの坪内麗音やバリトンのシモン鈴木、弦楽合奏団のアンサンブル・オペリーなどが出演する。

[日程] 11月1日

[会場] 長岡リリックホール

●富山県富山市

富山県美術館

〒930-0806 富山市木場町3-20

Tel. 076-431-2711 稲塚展子

<http://tad-toyama.jp/>

第12回世界ポスタートリエンナーレトヤマ2018 (IPT2018)

1985年からトリエンナーレ形式で実施している日本唯一の国際公募ポスター展。今回は富山県立近代美術館が移転新築し、2017年3月に富山県美術館となってから初めての開催。世界47の国と地域から寄せられた3,239点の中から審査により選ばれた作品と招待作品を加えた411点で、世界の最先端のポスターデザインを紹介する。

[日程] 8月11日～10月8日

[会場] 富山県美術館

●岐阜県岐阜市

みんなの森 ぎふメディアコスモス

〒500-8076 岐阜市司町40-5

Tel. 058-264-0011 渡邊真吾

<https://g-medicosmos.jp/>

メディコスまつり フム・ドキ・ワイワイ

2015年にオープンした複合文化施設・みんなの森 ぎふメディアコスモスで行われる秋のイベント。4回目となる今回は、43の市民企画プログラムで構成され、岐阜市やメディアコスモスのことを「フムフム」学んだり、いろいろなことを一緒に「ドキドキ」体験したり、みんなで「ワイワイ」楽しめる内容となっている。

[日程] 9月30日

[会場] みんなの森 ぎふメディアコスモス

●岐阜県美濃加茂市

美濃加茂市民ミュージアム

〒505-0004 美濃加茂市蜂屋町上蜂屋3299-1

Tel. 0574-28-1110 和歌由花

<http://www.forest.minokamo.gifu.jp/>

中村裕太|日本ラインの石、岐阜 チョウの道

毎年開催される現代美術家によるレジデンスプログラム。今年度招聘された美術家の中村裕太は、木曽川と岐阜チョウにまつわる2つのエピソードを手掛かりに、木曽川流域で「石」と「チョウ」を観察することから制作を始めた。自らの手で集めた物品や資料、映像作品、館に所蔵されている民具などの資料を再構成してインスタレーションとして展示することで、地域の自然や暮らしを描き出す。

[日程] 9月22日～10月28日

[会場] 美濃加茂市民ミュージアム

●静岡市

静岡県立美術館

〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2

Tel. 054-263-5857 野田麻美

<http://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/>

幕末狩野派展

明治150年を記念して、幕末に活躍した狩野派の絵師たちを取り上げた展覧会。400年にわたり画壇の中心にいた狩野派の絵師たちが江戸幕府崩壊の動乱期に、何を、どのように描いたのかを包括的に紹介する。全国有数の狩野派コレクションを有する強みを活かし、狩野一信の大作をはじめ、個性派絵師の作品や初公開作品も多数展示する。

[日程] 9月11日～10月28日

[会場] 静岡県立美術館

●静岡市

静岡市民文化会館

〒420-0856 静岡市葵区駿府町2-90

Tel. 054-251-3751 鈴木芳徳

<http://www.scch.shizuoka-city.or.jp/>

ラウドヒル計画「BEAT IT!!～新今川物語2018～」

2019年に生誕500年を迎える戦国大名・今川義元を中心としたオリジナルストーリーを市民約70人で上演する。「ラウドヒル計画」は、全出演者と脚本家が静岡出生または出身で、完全オリジナル作品にこだわり、静岡発の舞台作品を創造・発信するプロジェクト。日常的にもワークショップを展開・継続していくことで職場や家とは異なる、新しい場をつくることを目指している。

[日程] 11月3日、4日

[会場] 静岡市民文化会館



ラウドヒル計画『ACTION!! ～シズオカ新撰組血風録～』2017年3月初演

●浜松市

浜松市楽器博物館

〒430-7790 浜松市中区中央3-9-1

Tel. 053-451-1128 青木隆行

<http://www.gakkihaku.jp/>

ふじのくに子ども芸術大学講座 ワークショップ「インドネシア の伝統芸能体験～影絵・ガムラン・宮廷舞踊～」

赤道直下の大国インドネシアの中中部ジャワ地方に伝わる3つの素敵な芸術を体験する。1つめは、ユネスコ世界無形文化遺産の影絵人形芝居「ワヤン・クリ」。人形をボール紙でつくり、実際に影絵芝居を実施。2

つめは青銅打楽器アンサンブル「ガムラン」。10種類以上の楽器をすべて体験して合奏し、気持ちのいい音空間を味わう。3つめは、宮廷に伝わる踊りを体験する。

[日程] 10月14日

[会場] アクトシティ浜松研修交流センター

●静岡県富士市

富士市文化振興財団

〒416-0953 富士市蓼原町1750

Tel. 0545-60-2510 佐野務

<http://rose-theatre.jp/>

ロゼシアター開館25周年記念 ミュージカル『I Live Here』

今年で20回目を迎える市民参加型ミュージカル公演。今回は5年前にホールの職員が書いた脚本をリメイクし、開館25周年記念として上演。演出と振付以外は衣装・美術・舞台プランなどすべて市民が手がけ、地元出身でプロの劇団に在籍していた市民が演出助手としてキャストをけん引。年齢もさまざまな市民60人が華組、夢組に分かれ2日間4回の舞台に臨む。

[日程] 10月27日、28日

[会場] 富士市文化会館ロゼシアター

●名古屋市

愛知県芸術劇場

〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2

Tel. 052-971-5609 山本麦子

<http://www.aac.pref.aichi.jp>

第17回AAF戯曲賞受賞記念 公演『シティⅢ』

上演を前提として全国から戯曲を公募するAAF戯曲賞の第17回大賞に選ばれたカゲヤマ気象台の『シティⅢ』を舞台化。文明が一度滅び、再興した未来の荒野で、泥棒や旅芸人、爆弾屋といった人々がゆっくりと

悲劇に巻き込まれながらも希望を見出していく様子を描く。演出には、振付家・ダンサーとして活躍する振子びじんを迎え、ダンス・演劇の枠を超えた舞台を創造する。

[日程] 10月26日～28日

[会場] 愛知県芸術劇場小ホール

●豊橋市

豊橋文化振興財団

〒440-0887 豊橋市西小田原町123

Tel. 0532-39-8810 吉川剛史

<http://www.toyohashi-at.jp>

プラット親子わくわくプログラム2018 PLAT小劇場シリーズ・ KAKUTA『ねこはしる』

2018年からプラットの芸術文化アドバイザーを務める桑原裕子が手がける大人も子どもも楽しめる舞台公演。彼女が主宰する劇団KAKUTAが取り組んでいる限りなく演劇に近い朗読劇「朗読の夜」シリーズで好評を博している工藤直子の名作童話『ねこはしる』を、音楽に扇谷研人を迎え、言葉と歌が織りなす“とびだす童話”としてリニューアル。物語に登場するさまざまな生き物たちが、客席へ語りかけ、縦横無尽に走りまわり、時には客席に飛び出して物語を展開していく。

[日程] 10月6日、7日

[会場] 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT アートスペース



『ねこはしる』 撮影：相川博昭

近畿

●滋賀県大津市

びわ湖大津秋の音楽祭運営協

議会事務局

〒520-0047 大津市浜大津4-1-1 (大津市都市再生課内)

Tel. 077-528-2501 橋本・谷口

<http://www.biwa-on.jp>

びわ湖大津秋の音楽祭

「音楽の〇△□見つける」をテーマに、音楽でまちを彩ろうと、びわ湖ホールをメイン会場に大津市内各所でジャズやクラシック、吹奏楽など50以上の催しが行われる。メインイベントとして、大阪府立淀川工科高校吹奏楽部と一般公募による参加者の総勢約1,000人で演奏する「びわ湖に響け！1000人の吹奏楽with淀工」を開催する。

[日程] 9月8日～11月11日

[会場] びわ湖ホール、しがぎんホール、なぎさ公園おまつり広場ほか

●神戸市

横尾忠則現代美術館

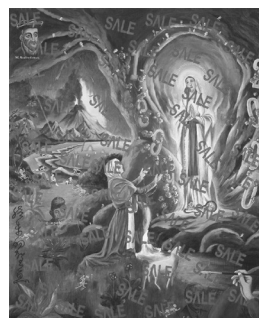
〒657-0837 神戸市灘区原田通3-8-30

Tel. 078-855-5602 山本淳夫

<http://www.ytmoca.jp/>

横尾忠則 在庫一掃大放展

あえて特定のテーマを設けず、「まだ当館で展示されたことがない作品」のみを出品するというユニークな展覧会。タイトルの「在庫一掃」にちなみ、過去紹介されることのなかった珍しい絵画作品約70点から構成するとともに、美術館全体を特売



横尾忠則《終末の聖画安売》(1998年/163.0×130.3cm/油彩、ラッカー、コラージュ・布/Villa Magical 2014 蔵)

セール会場に見立てたユーモラスな演出を行う。関連イベントとしてちんどん通信社による公演も開催。

[日程] 9月15日～12月24日

[会場] 横尾忠則現代美術館

●兵庫県伊丹市

いたみ文化・スポーツ財団

〒664-0846 伊丹市伊丹2-4-1 (アイホール内)

Tel. 072-782-2000 宮村賢治

<http://www.aihall.com/>

「地域とつくる舞台」シリーズ いたみ・まちなか劇場『味わう舞台』

まちなかで舞台芸術を楽しむ、「いたみ・まちなか劇場」シリーズ。今回は「味わう舞台」と題して、4名の俳優・舞踊家による一人芝居、ソロダンス公演を伊丹市内の個性豊かな飲食店で開催する。寿司や創作懐石、ビュッフェ、カフェといったお店それぞれの自慢の料理と、アイホール選りすぐりのステージがセットで楽しめ、目にも舌にも“満福”な一日を堪能できる。

[日程] 10月3日、10日、31日、11月7日

[会場] 白雪ブルワリービレッジ長寿蔵、西洋懐石アンシャンテ、鮎千寿、Cafe Champrou

●兵庫県川西市

川西市文化・スポーツ振興財団

〒666-0015 川西市小花2-7-2

Tel. 072-740-1117 丹治亜弥子

<http://www.mitsunaka-bunka.jp/>

第27回みつなかオペラ ブッチーニ：歌劇「トスカ」

平成28年度の『マノン・レスコー』、昨年度の『妖精ヴィッリ』『外套』とこれまで上演してきた「G.ブッチーニ・シリーズ」の集大成として大作『トスカ』に取り組む。指揮の牧村邦彦、演出の井原広樹ほか、経験豊富なスタッフがタッグを組み、ホー

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

ルの特性を活かした良質なオペラの発信を続けている。

[日程] 10月6日、7日

[会場] 川西市みつなかホール

●兵庫県姫路市・赤穂市

姫路国際音楽祭実行委員会

〒670-8501 姫路市安田4-1
(姫路市文化国際課内)

Tel. 079-221-2098 阪口昌弘

<http://www.imf-le-pont.jp/>

ル・ボン国際音楽祭2018

赤穂・姫路

2007年に始まった国際音楽祭。赤穂・姫路ゆかりの世界的ヴァイオリニスト・榎本大進が音楽監督を務め、2つの市の実行委員会が共同開催する(ル・ボンは懸け橋を意味するフランス語)。出演は今年初参加のセルゲイ・ナカリヤコフ(トランペット)など、榎本と親交のある世界的演奏家たち。関連イベントでは地元の子どもたちと榎本の共演も。

[日程] 10月7日～14日

[会場] 赤穂市文化会館ハーモニーホール、姫路城二の丸、書写山圓教寺、パルナソスホール

●和歌山県田辺市

田辺市立美術館分館 熊野古道なかへち美術館

〒646-1402 田辺市中辺路町近露891

Tel. 0739-65-0390 知野季里穂

<http://www.city.tanabe.lg.jp/nakahechibijutsukan/>

開館20周年記念特別展

「鈴木昭男一内在一」

世界各地で行われているプロジェクトを、2005年に日本で初めて行った縁から、開館20周年を記念し、日本におけるサウンド・アートの先駆者として知られる鈴木昭男を再び招聘する。「音の内在」をテーマに、展示室内や美術館の庭で環境に合わせたサウンドインスタレーションの新作を4点制作する。鈴木

の作品によって、改めて熊野古道なかへち美術館、そして美術館の存在する環境について再考、再認識させる。

[日程] 10月6日～11月25日

[会場] 田辺市立美術館分館 熊野古道なかへち美術館

中国・四国

●岡山市

岡山県立美術館

〒700-0814 岡山市北区天神町8-48

Tel. 086-225-4800 廣瀬就久

<http://okayama-kenbi.info/>

大久保英治展 日常の歩行 —伽耶六国から吉備へ—

岡山にゆかりのある作家を紹介する「岡山の美術」第7回。今回は、幼少時から高校在学時までを岡山県矢掛町で過ごした作家・大久保英治を取り上げる。長らく韓国各地で制作された大久保の作品を広く紹介するほか、鬼ノ城や朝鮮通信使など岡山と韓国の繋がりを示すような歴史に着目し、新作インスタレーションを発表する。

[日程] 9月26日～11月4日

[会場] 岡山県立美術館



大久保英治《三望庭》(2015年/アーツスペースChoA [韓国昌原市鎮海区])

●岡山市

おかやま国際音楽祭実行委員会事務局

〒700-0825 岡山市北区田町1-8-30 (岡山市スポーツ・文化振興財団内)

Tel. 086-232-7811 三村晃弘

<http://okayama-sc.jp/oimf/2018/>

おかやま国際音楽祭2018

国内外のアーティストらが市内の音楽ホールや街角で、ジャズやクラシック、ポップスなど多彩な56の音楽イベントを実施。メインイベントの「下石井3DAYS」では、TOKUや武田真治、May J.など人気ミュージシャンによるライブを開催する。そのほか、公募により市民が企画した公演も多数開催される。

[日程] 9月29日～10月14日

[会場] 岡山市内各所

●広島県呉市

藤井清水音楽祭実行委員会

〒737-0051 呉市中央3-10-1 (呉市文化ホール内)

Tel. 0823-25-7878 脇美登里

<http://kure-bunka.jp/>

国際音楽の日コンサート

藤井清水音楽祭vol.17

国際音楽の日を記念し、大正から昭和にかけて活躍した呉市出身の作曲家・藤井清水の作品を紹介する。洋楽の部では『秋の曲メドレー』などを、邦楽の部では『呉小唄変奏曲』や藤井清水民謡研究会による『娘と船大工』を演奏する。地元ゆかりのアーティスト・河部真里、乗松恵美(ソプラノ)、北林聖子(ピアノ)もゲスト出演。

[日程] 10月7日

[会場] 呉市文化ホール

●徳島県徳島市

徳島県とくしま文化振興課

〒770-8570 徳島市万代町1-1

Tel. 088-621-2249 大崎理英

<http://www.tokushima-event.com/>

曾根崎。情交

～Junction of SONEZAKI

徳島県の伝統文化である人形浄瑠璃の振興を目的として上演される創作演劇。作・演出をわかぎふが務め、わかぎが主宰する関西小劇場の劇団リリパットアーミーⅡと徳島県内の劇団まんまるの俳優らが出演す

る。徳島県の劇場を舞台にしたストーリーで、劇中劇には人形浄瑠璃が登場し、今回の演劇のためのスペシャルユニットが演じる。

[日程] 10月7日

[会場] あわぎんホール(徳島県郷土文化会館)

●香川県高松市ほか

かがわ文化芸術祭実行委員会

〒760-8570 高松市番町4-1-10 (香川県文化振興課内)

Tel. 087-832-3785 久保・高森

<http://www.kagawa-arts.or.jp/88/>

かがわ文化芸術祭2018

12月31日まで県内各地で開催される“誰もが、気軽に参加できる”文化芸術の祭典。60回目を迎える今年は、記念シンポジウムや紅白対抗かがわ舞台芸術祭、紅白対抗かがわ音楽祭を開催するほか、さまざまなジャンルのアート表現に取り組む。また、特別共催事業として、芸術祭の期間に合わせて、さまざまな県主催事業等が開催される。

[日程] 9月30日～12月31日

[会場] レクザムホール(香川県県民ホール)ほか県内各所

●高知県高知市ほか

高知県芸術祭執行委員会事務局

〒781-8123 高知市高須353-2

Tel. 088-866-8013 政岡知実

<http://www.kochi-art.com/>

高知県芸術祭

広く県民が芸術に親しみ、高知の文化芸術の魅力を再発見、発信することを目的とした総合芸術祭。68回目となる今回は、県内各地で文化芸術活動を行う団体・個人による100以上のイベントが開催される。今年のメインイベントは、「東京キャラバン in 高知」「チェコ・フィルのヴィルトゥオーゾ競演」。

[日程] 9月15日～12月16日

[会場] 高知県内各地

九州・沖縄

●福岡市

新・福岡古楽音楽祭実行委員会
〒810-0001 福岡市中央区天神1-1-1 西館2F(アクロス福岡事業部内)

Tel. 092-725-9327 添嶋麻里

<http://www.kogaku.net/>

新・福岡古楽音楽祭2018

プロのコンサートやアマチュアの発表の場、参加者の研鑽と交流の場となるよう新しい世代が積極的に企画・運営に関わり、古楽で繋がる交流の輪を広げていくことを目指す音楽祭。今年は第5回を記念して、モンテヴェルディのオペラ『オルフェオ』など、初期バロック時代の名曲を楽しむことができるコンサートが行われる。

[日程] 10月26日～28日

[会場] アクロス福岡

●福岡県宗像市

宗像ユリックス

〒811-3437 宗像市久原400

Tel. 0940-37-1483 宮崎穂波

<http://yurix.munakata.com/>

宗像ミアーレ音楽祭2018

響きわたれ!おんがくの風

誰もが身近に音楽に親しみをもち、また参加することで市全域が音楽で溢れ、市民が音楽を通して一体感を共有し、宗像をもっと好きになることを目的として開催している音楽祭。本年度は、宗像ユリックス開館30周年記念事業として、「ミアーレ・ジュニア合唱団コンサート」や「市民ステージ」などの人気公演のほか、さまざまな音楽イベントを行う。

[日程] 9月29日、30日

[会場] 宗像ユリックス

●佐賀県佐賀市

三人展実行委員会

〒840-0041 佐賀市城内1-15-23

Tel. 0952-24-3947 竹下・安永

<http://tokushu.saga-s.co.jp/sanninten/>

三人展 Forward Stroke 明日への眼差し

現代日本を代表する佐賀出身の気鋭のアーティスト、池田学(画家)、葉山有樹(陶芸家)、八谷和彦(メディアアーティスト)を取り上げた特別展。代表作を公開するとともに、それぞれが美術館の1室を担当し、工夫を凝らした展示空間を創出、作品に宿る「前向きな意思」「強い眼差し」を体感できる。開催記念として3人のクロストークも実施。
[日程] 9月30日～11月18日
[会場] 佐賀県立美術館

●熊本市

熊本市現代美術館

〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3

Tel. 096-278-7500 佐々木玄太郎

<https://www.camk.jp/>

[日程] 9月30日～11月18日

[会場] 佐賀県立美術館

魔都の鼓動 上海現代アートシーンのダイナミズム

上海のアートシーンの活況に注目する展覧会。その成立に歴史的に大きな役割を果たした作家から、刺激的な若手作家まで13組を紹介。うち5組は日本初紹介。さらに、この冬同館で開催された「熊本城×特撮美術 天守再現プロジェクト展」に展示された熊本城のミニチュアを使用して制作された、若手メディア・アーティストのルー・ヤンと日本のクリエイターとのコラボ作品など、新作も複数展示される。

[日程] 9月22日～11月25日

[会場] 熊本市現代美術館



ジャン・ホアン(張洵)《Q Confucius No.2》(2011) ©Zhang Huan Studio All Rights Reserved

特集 アートプロジェクト

前号に続き、全国各地で開催されている多彩なアートプロジェクトを紹介しします。

※開催地の北から順に掲載。

㊦は会場、㊦は問い合わせ先です。

(➡は地域創造助成事業)

●青森県八戸市 7月25日、8月17日、18日、11月14日、12月12日、2019年1月9日

八戸工場大学2018

住んでいる者にとってはごく当たり前の日常の風景かもしれない「工場」。そんな工場を、景観やまちづくり、観光、文化、産業などの視点から多角的にとらえ、また新たな視点と気付きをもたらしてくれるアートを組み合わせることで、工場の魅力や価値を再発見し、発信していくプロジェクト。2013年に始まり、今回で6回目。

㊦ 八戸ポータルミュージアムはっち ほか ㊦ 八戸市まちづくり文化推進室 Tel. 0178-43-9156



八戸工場大学2018アートプロジェクト with 東北電力八戸火力発電所「さよなら、ぼくらの大煙突」(8月17日、18日) ©八戸工場大学写真部

●青森県八戸市 10月5日、6日

酔っ払いに愛を2018

～横丁オンリーユーシアター～

市街地に古くからある横丁のあちこちで繰り広げられるダンス、芝居などのパフォーマンスをハシゴして楽しむイベント。2008年に始まり、今年で10回目を迎える。今回は、八戸を拠点に活動するダンスグループDANCE WAGなど9組のパフォーマーたちが登場。お酒片手に、ここでしか見られないパフォーマンスを楽しむ。

㊦ 八戸市中心街の横丁の空き店舗や路上 ㊦ 酔っ払いに愛を実行委員会、八戸市(八戸ポータルミュージアム はっち) Tel. 0178-22-8228



昨年の様子(DANCE WAG)

●岩手県花巻市 10月7日、8日

土澤アートクラフトフェア 2018 秋

2008年に開始され、11年以降は春秋の年2回開催で今回16回目を迎える。街かど美術館事業の関連行事として画家・萬鉄五郎の生地・花巻市東和町を会場に、アートをより身近に感じ生活の中に取り入れることを目的とした、気軽にアート作品を購入できる機会を提供する。県内外のアーティスト320組による美術品や工芸品、手づくり品が揃うアート市。㊦ 萬鉄五郎記念美術館前庭と土澤商店街 ㊦ 土澤アートクラフトフェア 実行委員会(キクヤ内)

Tel. 0198-42-2632

●仙台市 9月28日～30日

仙台クラシックフェスティバル 2018

「楽都仙台」のクラシック音楽の祭典として親しまれている「せんくら」。13回目の今年は、4施設10会場で多彩なアーティストによる87公演をハシゴできる。仙台国際音楽コンクールの歴代入賞者も集結、来年のコンクール開催に向けたプレ・イヤーとして華を添える。キャッチコピーは「せんくら、いろいろ、ド・レ・ミ・シ・ソ・ラ・ミ・ファ・ソ・ラ・ミ」。

㊦ 日立システムズホール仙台(青年文化センター)、仙台銀行ホール イズミティ21、エル・パーク仙台、太白区文化センターほか

㊦ せんくら事務局(仙台市市民文化事業団内) Tel. 022-727-1872

●仙台市 10月11日～14日

せんだいで卸町アートマルシェ 2018

「仙台市卸町を、全国からアートの集

▼— 今月の情報 (特集 アートプロジェクト)

う芸術のまちに」をコンセプトに昨年
から始まったアートフェスティバル。
演劇やダンスなど多彩な20以上の
芸術作品が全国から集まるほか、会
場内には地元で人気の酒屋やパン
屋、写真館などのブースを設置し、一
日中楽しめるプログラムを展開する。
☎ せんだい演劇工房10-BOX・能・B
OX ☎ せんだい卸町アートマルシェ
実行委員会 Tel. 090-4130-1775

●秋田県秋田市ほか
9月8日～11月11日

石井漢・土方巽記念 国際ダンス フェスティバル2018「踊る。秋 田」vol.4

石井漢、土方巽など日本を代表す
る舞踊家・舞踏家を輩出した秋田
を、「舞踊・舞踏の聖地」として国内
外に広く発信し、地域活性化を目
指すダンスフェスティバル。特別野
外公演「大駱駝艦の金粉ショー」に
始まり、第一回土方巽記念賞受賞
者の三東瑠璃や石井漢記念賞受賞
者の勅使川原三郎・佐東利穂子の
公演を実施。ほかにも三種町で地
元の子どもたちが参加するアウトリ
ーチ公演も開催される。
☎ 秋田市文化会館、秋田市にぎわ
い交流館AU、三種町山本ふるさと
文化館ほか ☎ 石井漢・土方巽記
念 国際ダンスフェスティバル実行
委員会 Tel. 018-874-9037

●福島県会津若松市
10月6日～11月4日

あいづまちなかアートプロジェク ト2018

会津の文化資源である漆をテーマと
した「会津・漆の芸術祭」と、会津が
誇るアーティストの優れた芸術作品
などを展示する「まちなかピナコテ
カ」を二本柱としたまちなかのアート
イベント。展示会場としてまちなか
の歴史ある蔵や店舗などを活用し、
古くから地域にある建物をもつ空間
的魅力と芸術作品のコラボレーショ
ンにより、まちなかをアートで彩る。
☎ 七日町通り、野口英世青春通り、
大町通りほか ☎ あいづまちなか
アートプロジェクト実行委員会
Tel. 0242-39-1305

●茨城県常陸太田市
9月30日～11月25日

鯨ヶ丘の小さな声

2016年の県北芸術祭で展示された
《Signs of Memory 2016: 鯨ヶ丘
のピンクの窓》の作者・原高史を再
び招聘し、古い街並みの残る鯨ヶ
丘地域を飾る標識・看板を新たに
制作。16年は地域の人々の思い出
や歴史をインタビューした言葉から
抜粋し展示したが、それらをベース
に、今年開催された街歩きのワー
クショップを通して採集した、高校
生など外部の人の目線による鯨ヶ丘
への言葉も展示する。

☎ 鯨ヶ丘地域各所

☎ 常陸太田市企画課

Tel. 0294-72-3111 (内線311、312)

●群馬県前橋市 10月12日～11
月4日(※金土日のみ開催)

アーツ前橋開館5周年記念 つまずく石の縁—地域に生まれ るアートの現場—

アーツ前橋の5周年をきっかけに商
店街と協働して開催されるまちなか
展覧会。出品作家は、これまでア
ーツ前橋のアーティスト・イン・レジ
デンスに参加した国内外10組のア
ーティスト。前橋が舞台となる作品
や、滞在したこと生まれた作品を
中心に紹介し、レジデンスの成果
展も兼ねている。商店街を舞台に、
回遊型の展覧会を行うことで、まち
の活性化を図る。

☎ 前橋中心市街地周辺

☎ アートによる文化交流推進実行
委員会事務局(アーツ前橋内)

Tel. 027-230-1144



ヘヴン・バック(韓国)制作風景(2015年)
撮影:木暮伸也

●新潟県佐渡市 前期:8月10日～
26日/後期:9月28日～10月14日

さどの島銀河芸術祭2018

佐渡島の自然や歴史、民話、伝承

を掘りおこし、作品展示、アートの
イベント、食や市民連携のプロジェク
トを通してこの土地の魅力を再発
見していく芸術祭。観光地として知
られた場所とは異なる寺社や漁港、
廃校、舟小屋、棚田などが会場と
なる。今回は漫画家・椋図かずおの
『わたしは真悟』をテーマとした特別
展示も見どころ。

☎ 佐渡島内複数箇所

☎ 「響く島。SADO」プロジェクト総
合案内窓口 Tel. 050-5305-5135

●名古屋市 10月27日～11月18日
やっとかめ文化祭

今年で6回目の開催となる名古屋の
伝統文化をまちなかで体感するイ
ベント。狂言や歌舞伎などを街角で上
演する「芸どころまちなか披露」、ま
ちの歴史や文化を学ぶ「まちなか寺
子屋」、40コースの「まち歩きなご
や」など。老舗料亭でお座敷芸や狂
言を食事しながら楽しむ「お座敷ラ
イブ」も開催。期間中は100を超える
プログラムを毎日開催する。

☎ 名古屋城ほか市内各所

☎ やっとかめ文化祭実行委員会

Tel. 052-262-2580



昨年の様子

●愛知県長久手市

9月29日～10月21日

ながくてアートフェスティバル2018

まちをアートで盛り上げ、アートを
きっかけに人と人をつなぐイ
ベント。市内各所でアート作品の展示
や、ワークショップ、農業とアートの
コラボレーション「NAFファーム」
などさまざまな企画が行われる。ま
た、多くの作家が集まり、2メート
ル四方の小さなアトリエが50店以
上出店する人気企画「NAFアトリエ
マーケット」も開催。

☎ 長久手市文化の家ほか市内各所

☎ ながくてアートフェスティバル実行

委員会 Tel. 0561-61-3411

●滋賀県長浜市 10月6日、7日
ART IN NAGAHAMA 2018

1987年に「秀吉公が長浜城下に設
けた楽市楽座を、芸術の視点で再
興する」ことをテーマとして、さま
ざまな職業の市民が議論を重ねてス
タート。毎年、長浜の中心市街地
に全国から約200組のアーティスト
が集結し、作品の展示・販売を行っ
ている。今年はロバート・プラット
による絵画展や早川鉄平による巨
大絵巻展示、ライブペインティング
などさまざまな催しが行われる。

☎ 長浜市中心市街地

☎ 芸術版楽市楽座 アートインナガ

ハマ事務局 Tel. 0749-65-0393



昨年の様子

●鹿児島県西之表市・中種子町・
南種子町 10月20日～11月25日

種子島宇宙芸術祭

宇宙に一番近い島・種子島を舞台
に、宇宙をテーマにした果てしない
時間と人間の根源を奥深く解釈し
た作品を島全域で展示するほか、ワ
ークショップや巨大な洞窟でのプラ
ネタリウムイベントなどを開催。今
年も、昨年に引き続きクラウドファ
ウンディングによって実施プロジェ
クトが決まる「宇宙のタネ」など、新
しい芸術祭のカタチに挑戦する。

☎ 種子島全域

☎ 種子島宇宙芸術祭実行委員会

Tel. 0997-22-9119



中村哲也「ペイントフェアリグ・5S-H 型改」
展示会場:旧南界中学校(中種子町)
©KishinHimori

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げて
レポートします

石川県金沢市

オーケストラ・アンサンブル
金沢／石川県立音楽堂
日本の室内オペラシリーズ
「卒塔婆小町」



上：オペラ『卒塔婆小町』
下：歌劇『ペレアスとメリザンド』
写真提供：石川県音楽文化振興事業団

● オーケストラ・アンサンブル金沢 石川県立音楽堂 日本の室内オペラシリーズ
神田松之丞と篠井英介が誘う講談&オペラ『卒塔婆小町』
[主催] 公益財団法人石川県音楽文化振興事業団
[会期] 2018年8月19日
[会場] 石川県立音楽堂邦楽ホール
[出演] 神田松之丞、田中祐子、知久晴美、篠井英介、家田紀子、小林由樹ほか

● オーケストラ・アンサンブル金沢
歌劇『ペレアスとメリザンド』
[会期・会場] 2018年7月30日：石川県立音楽堂コンサートホール、8月1日：東京オペラシティコンサートホール

*OEKは文化庁、芸術文化振興基金の助成金により2009年度より2017年度まで継続して共同制作オペラに取り組み、これまでに『トゥーランドット』『椿姫』『高野聖』『カルメン』『こうもり』『メリーウィドウ』『フィガロの結婚』『蝶々夫人』『トスカ』を発表。

日本初のプロフェッショナルの常設室内管弦楽団としてオーケストラ・アンサンブル金沢(OEK)が1988年に設立されてから、今年で30年になる。初代音楽監督である岩城宏之の強いリーダーシップのもと石川県と金沢市によって設立されたOEKは、設立13年後の2001年に「オーケストラにとっての最後の楽器」として音楽活動の拠点となる石川県立音楽堂(2003年～OEKを運営する石川県音楽文化振興事業団が指定管理者)を手に入れた。岩城亡き後、11年にわたって音楽監督を務めた井上道義も今年3月で退任し、今年9月からはフランス生まれのマルク・ミンコフスキが芸術監督に就任。30周年を機に新たな局面を迎えるOEKと石川県立音楽堂の活動取材した。

取材に訪れた8月19日には、邦楽ホールで三島由紀夫原作による石冢真礼生の珍しいオペラ『卒塔婆小町』(1956年初演)が上演されていた。音楽堂では上演される機会の少ない日本の室内楽オペラにも力を入れ、これまでに『あまんじゃくとうりこひめ』『耳なし芳一』『死神』などをさまざまな形で上演してきた。今回は人気講師の神田松之丞による新作講談と組み合わせた企画で、満席だった。今後も邦楽ホールでは洋邦コラボレーション・コンサートや、邦洋演奏家とダンスがコラボする森山開次演出の「芸の鼓動」などユニークな企画が予定されている。こうしたチャレンジができるのも、オーケストラが運営するホールだからこそだ。

事業団事業部長として音楽堂が実施する自主事業を統括しながら、OEKのゼネラルマネージャーとしての顔ももつ岩崎巖事業部長は、「リハーサルの過程からコンサートホールを使うことができるOEKは日本一優遇されているオーケストラなのです」と胸を張る。自治体とフランチャイズ提携するオーケストラが増えている中、劇場とオーケストラの経営を全く同一の財団が担っているのはここだけだ。

財団の事業は「オーケストラ運営事業」「音楽堂自主事業」「音楽堂管理事業」に区分され、団員の人件費を含むオーケストラ運営事業は

県・市の補助金、音楽堂自主事業は県の補助金、音楽堂管理事業は県の指定管理料も充当。OEKの年間演奏会回数は約100～110回、それとほぼ同数の室内楽公演を毎年行い、今年は30周年記念で金沢市内30カ所を室内楽コンサートで巡回している。近年は文化庁の助成金を活用したオペラ制作にも積極的に取り組むことでその存在感を強めている(*)。

30周年を機に音楽監督制度の存続について大きな選択を迫られたと言い、今後は指揮者の知名度に頼りすぎず、オーケストラ主体の考え方に転換していきたいとか。ミンコフスキの指揮者としての技量だけでなく、ボルドー国立歌劇場の総監督としてのネットワーク力を最大限に生かした企画が7月30日に芸術監督就任記念で上演された歌劇『ペレアスとメリザンド』だった。舞台制作にはボルドー国立歌劇場(今年1月に上演)のフランス人スタッフと音楽堂の日本人スタッフが共同であった。色々な“目”をモチーフにした映像が繰り返し投影され、フランス的美意識とOEKの緻密な演奏がともに堪能できて、新体制となったOEKへの期待を大いに予感させるものだった。

音楽堂としての顔に目を転じると、盛んな伝統芸能の拠点となる邦楽ホールがあることも強みとなっている。「30年間でOEKが委嘱した新曲は100曲を超えますが、邦楽が関係したものも10曲近くあります。例えば、鈴木行一さんには素囃子とオーケストラ・混声合唱のための作品『勧進帳』を作曲してもらうなど、積極的にコラボレーションしてきました」と岩崎部長。

最後に次の30年への展望を聞くと、「数年で創設当時から在籍している楽団員が皆入れ替わる。スタッフも生え抜きの次世代が育っていますが、行政との交渉力など課題があります」と、まずは世代交代を乗り切ることだと話す。岩城が生前語っていた「OEKサウンドをつくり、発信することで、日本中、世界中から金沢へ聞きにきてもらえるオーケストラになる」というビジョンがこの先どうなるか。北陸新幹線という強い味方も得た今、この先数年の活動が大きな意味をもつように感じた。(横堀応彦)